

畜産側、耕種側の実証をもとに採算のとれる経営モデルを試算

実証での作業時間や機械設備等の諸条件をふまえた試算結果は以下のとおり

畜産農家

- ・ 飼養規模：成牛30頭以上（乾牧草2kgをWCSに代替）
- ・ 収量及び収穫作業受託面積：1,050kg/10aで4ha（以上）
- ・ 必要な機械設備：WCS等収穫調製機械・堆肥運搬車両および散布機械

耕種農家

（集落営農組織を想定）

- ・ 経営規模
- ・ WCS用稲：4ha、主食用稲：16ha
- ・ 主な機械装備：トラクター、田植機等

取組条件

WCS収穫調製 堆肥生産・散布

取組条件

WCS用稲生産 堆肥散布受け入れ

収入

(千円)

乾牧草購入減	1,575
堆肥販売・散布受託	480
	2,055 ①

支出

(千円)

機械導入・維持コスト	
減価償却	470
修繕費等	549
資材費	701
人件費	300
	2,020 ②

WCS代替による収支差

+ 35千円 (① - ②)

ただし、減価償却期間は畜産農家自らが出役する必要がある

収入

(千円)

戦略作物助成金	3,200
耕畜連携助成金	520
	3,720 ①

WCS部門(4ha)の所得

977千円 (① - ②)

主食用米価格が15,000円/60kgの場合の面積あたり所得と同等

支出

(千円)

機械施設導入・維持コスト	
減価償却	700
修繕費等	190
肥料・農薬等費	1,163
人件費	210
堆肥購入・散布委託	480
	2,743 ②

奈良県の耕畜連携モデル②

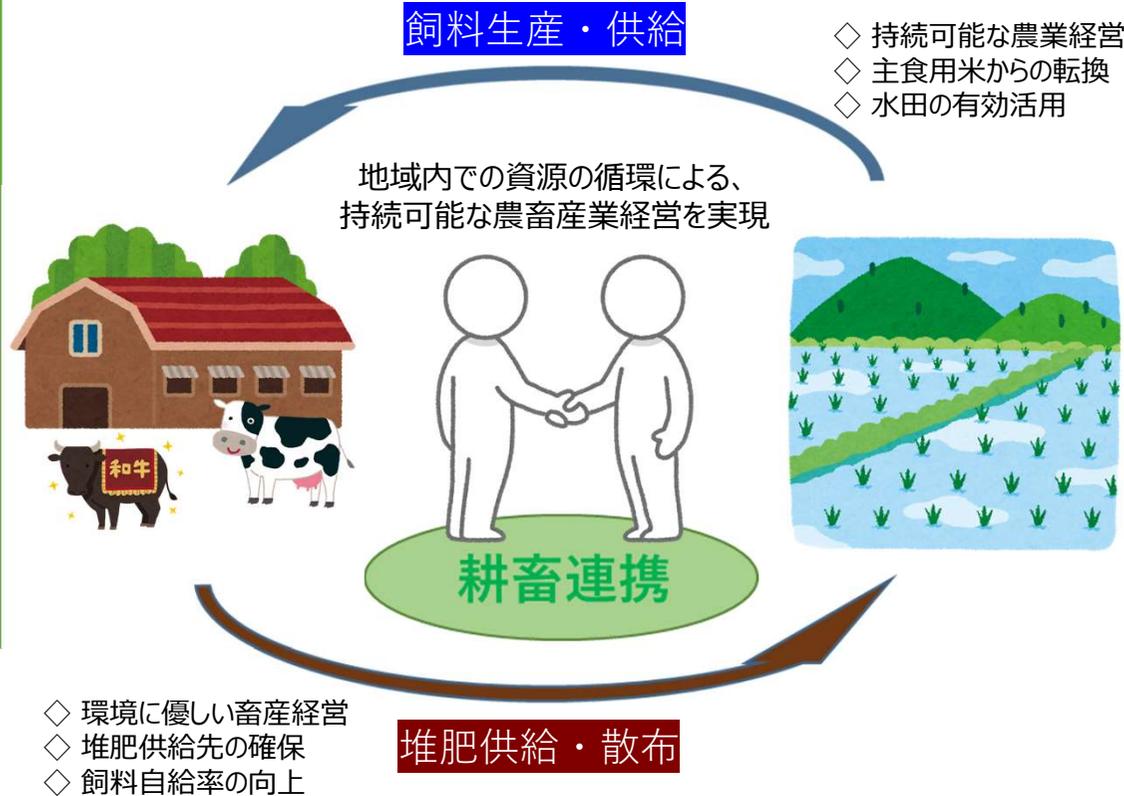
R5-6の実証で試みた結果をふまえたまとめ

小型ロールの利点や栽培、WCS作成の技術ポイントが明らかになった

畜産農家

条件：

- ・小型ロールの利点を活かすことが可能
小型ロールを使用しやすい牛舎構造である等
- ・飼料作物の機械を整備し、作業が可能
- ・機械運搬・作業時間・ロール持帰りを考慮し、近隣の田であること



耕種農家

条件：

- ・労力削減のため食用米以外に取り組む意思がある
- ・大型ロール収穫機が入りづらい小区画の田でもよい

まとめ

- ・上記の条件に見合う畜産農家と耕種農家がマッチングできれば、「持続可能な耕畜連携」が実現可能。
- ・県の畜産・耕種担当が栽培収穫技術を支援（実証で明らかになった栽培、WCS作成の技術ポイント等）し、耕畜連携の実現をめざす。